

## 事業名

### グローバルGAPの団体認証取得 ～JAグリーン近江老蘇集落営農連絡協議会～

## 事業の概要



### GAPとは良い農業の実践！

近江商人の理念である「三方よし」が活動の原点にある。環境にこだわる農業に取り組む4法人が協議会を設立。共通課題を解決するためグローバルGAPを取得。内部検査等の支援をJAが行っている。

買い  
手よし

売り手  
よし

世間  
よし

## 背景・経緯



### 4法人が抱えていた共通課題の解決に向けて

農業従事者の安全確保が共通課題であったため、「事故を未然に防止するマニュアルが必要だ！」ということで、グローバルGAPを取得。担い手のほとんどが兼業農家であり、けがなどから働き手を守るという目的もあった。米からはじめ野菜まで拡大。

## 事業のポイント

### 老蘇地区の集落営農

老蘇地域農地面積 353ha  
4集落営農（法人）の経営面積 282ha  
(80%)

- ◎集落ごとに設立した農業法人で、地域の農地を集約。
- ◎332の農業経営体を4経営体にまとめた。
- ◎約870トンのGLOBAL G.A.P.認証米の供給が可能となった。
- 2017年：米、2018年：麦、大豆、マンゴー、2019年：ネギで認証取得

## 事業の効果



TAC（地域農業の担い手に出向くJA担当者）がGAP認証取得を提案したことで、担い手農家との絆が深化。当JAに、地域農業の活性化に寄与する目的で、独自に定めた「担い手経営革新支援事業（TACチャレンジ事業）」があり、それによりTACが強力にバックアップ。担い手が新たに挑戦する際は、物心両面からのサポートが不可欠。同事業は、TACにとっても活動を支える有効な仕組みのひとつとなっている。

4法人は栽培記録管理や労務管理、経営管理の面で自律する意識やレベルが高く、GAP取得に一気に動き出した。

## 将来性・発展的展開



収穫期など農場検査

重厚長大なマニュアルを作るのではなく、各法人の自己管理を優先したうえで、共通部分のみ「憲法」のように統一。必要最少限のマニュアル化をしている。

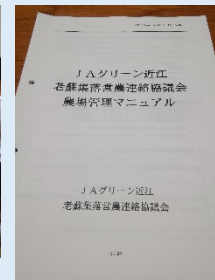
米以外の農産物にも広がっていき、現在は麦、大豆、マンゴー、ネギで認証取得。安全管理を目的としたグローバルGAPの習得であったが、今後は販売にもつなげることが課題である。



改善活動



協議会の開催(情報交換)



ルールの周知・実践の確認

持続力 = 思い × 仕組み